のは厳密には存在しないが、仮に$\mathbb{R}$の元の個数を∞と書くことにするとどうなるかを見ておくのも面白い。このときには⑧の独立変数の個数は

$$\infty^3\times3\times2-\infty^3\times2=\infty^3\times4$$

と書ける。独立変数の個数が$\boldsymbol{n}-\boldsymbol{m}$に一致しないことは、$T_1$, T_2では$\boldsymbol{n},\boldsymbol{m}$が有限値でないことにより、$T_3$, T_4, T_5では$\boldsymbol{n},\boldsymbol{m}$が有限値でないこと、および、$\boldsymbol{m}$個の方程式のすべてが独立なわけではないことによる。

	m	n	独立変数の個数
$T_1(P;Q_1,\cdots,Q_k;Z;S,U,I,J)$	3∞	3∞	6
$T_2(P_1,\cdots,P_k;E;S,U,I,J)$	$3k\infty$	$3k\infty$	$6k$
$T_3(Q_1,\cdots,Q_k;Y;S,U,I,J)$	$8\infty^4$	$6\infty^4$	$4\infty^3$
$T_4(P_1,\cdots,P_k;S,U,I,J)$	$3k\infty+8\infty^4$	$3k\infty+6\infty^4$	$6k+4\infty^3$
$T_5(P_1,\cdots,P_k;S,U,I,J)$	$3k\infty+8\infty^4$	$3k\infty+6\infty^4$	$6k+4\infty^3$

T_1, T_2では（独立変数の個数）×(1/2) が自由度と呼ばれ、T_3では独立変数の個数が自由度と呼ばれ、T_4, T_5では、T_2での自由度とT_3での自由度の和 $3k+4\infty^3$ が自由度と呼ばれる。自由度は可能な歴史の多様さの目安になる。